

# 2025年度決算説明会

---

2026年5月12日

# 本日の出席者

---



**伊藤 毅**  
代表取締役社長  
兼 CEO

発表  
Q&A



**中島 理恵**  
取締役  
執行役員  
COO

Q&A



**越路 和朗**  
執行役員  
CFO

発表  
Q&A







**ピーター・サルスティグ**  
執行役員  
チーフメディカルオフィサー

Q&A

# Agenda

- 01 Executive Summary . . . . . P. 4
- 02 2025年度業績概要及び2026年度通期予想 . . . . . P. 8
- 03 Appendix . . . . . P. 16

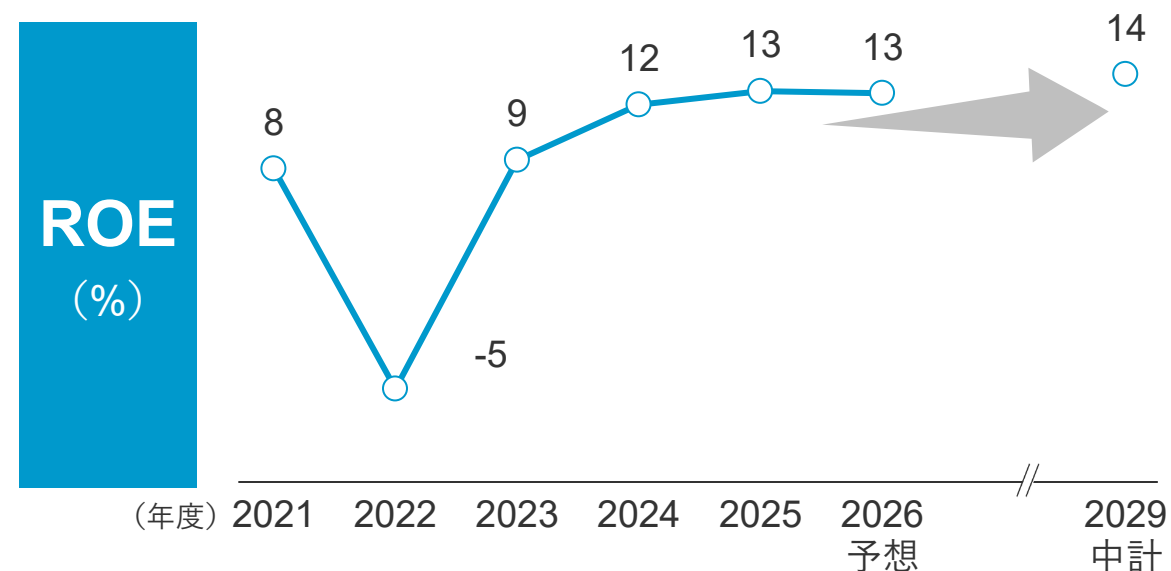
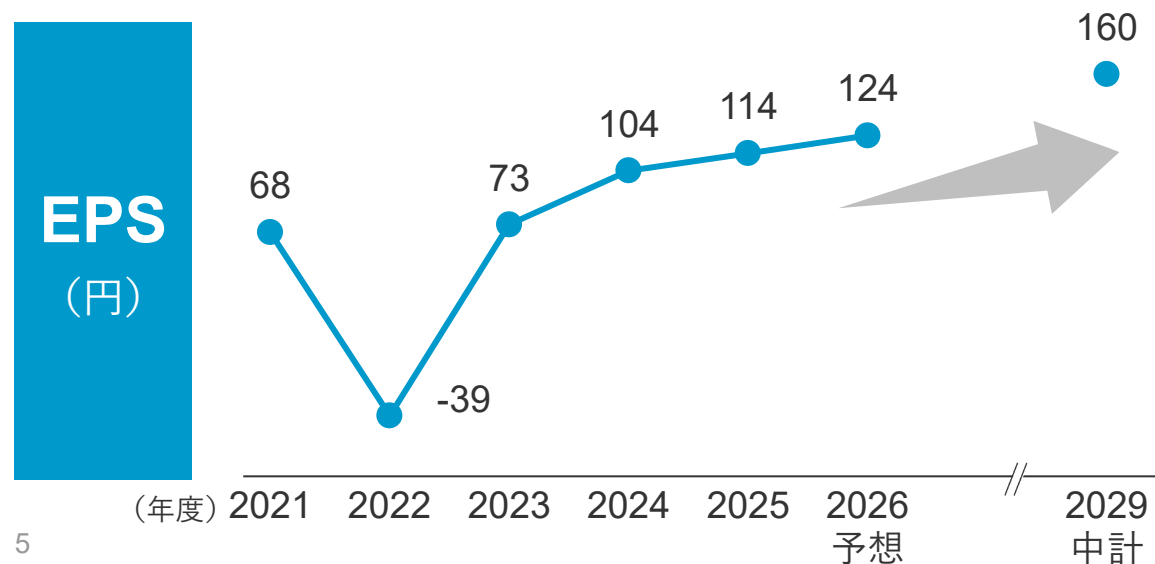
# 決算サマリー

<p>2025年度実績</p> 	<p>コア営業利益は 期初予想を上回り着地 安定的なEPS成長を実現</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 売上収益：2,916億円（対前期-2.8%）</li><li>■ コア営業利益：551億円（同-7.1%）、営業利益：478億円（同+2.0%）</li><li>■ EPS：114円（同+9.7%）</li></ul>
<p>2026年度予想</p> 	<p>計画通り 増収増益基調へ</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 売上収益：3,110億円（対前期+6.6%）</li><li>■ コア営業利益：590億円（同+7.0%）、営業利益：495億円（同+3.6%）</li><li>■ EPS：124円（同+9.1%）</li><li>■ 売上・利益ともに下半期偏重</li></ul>
<p>R&amp;D/BD</p> 	<p>中長期成長をけん引する Rxポートフォリオの 充実に向け着実に前進</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 近視進行抑制薬リジュセア/Ryjuneaや緑内障薬セタネオを上市</li><li>■ 日本で2026年5月15日に後天性眼瞼下垂薬アップニークを上市予定</li><li>■ 開発品の導入及び販売提携により 中国/アジアの後眼部領域へ参入及び中国緑内障ポートフォリオの強化</li></ul>
<p>株主還元</p> 	<p>利益成長に基づく 増配と 機動的な自己株式取得</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 2025年度：年間配当38円 319億円の自己株式取得を実施。2022年度から発行済株式の約20%を取得/消却</li><li>■ 2026年度：年間配当予想42円（4円増配） 自己株式取得についてはキャッシュ水準、将来の投資見込及び株価の状況を勘案し、機動的に実施する方針</li></ul>

# 持続的な成長に向けた2026年度ハイライト

日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>近視進行抑制薬リジュセアの更なる浸透。啓発TVCM開始。6月に選定療養制度追加予定</li> <li>後天性眼瞼下垂薬アップニークを5月15日に発売予定</li> <li>ジクアスLXが通期で貢献。セタネオの拡大、STN1013900の承認・上市を通じて緑内障領域も強化</li> </ul>
EMEA	<ul style="list-style-type: none"> <li>近視進行抑制薬Ryjuneaの上市国を7か国から14か国へ拡大</li> </ul>
アジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国での販売提携品抗VEGF薬ベオビュ、ルセンティスが通期で貢献</li> </ul>
中国	<ul style="list-style-type: none"> <li>Alphagan, AlphaganPなどAbbVie社との販売提携品が第2四半期より貢献</li> </ul>

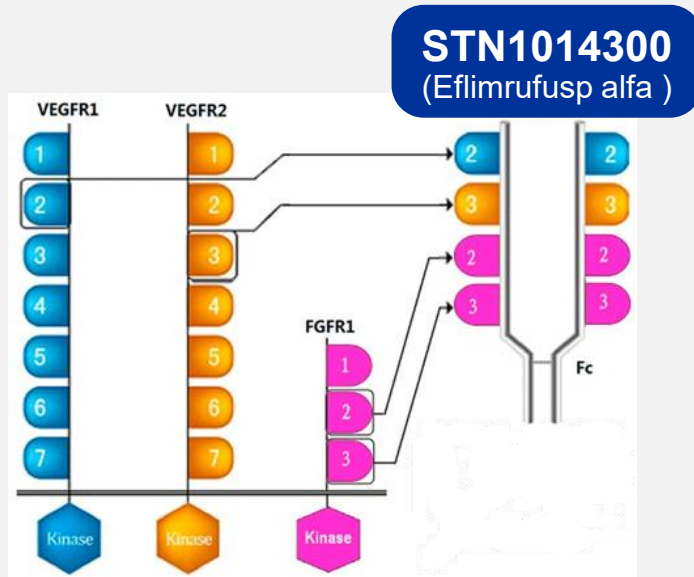
## 中期経営計画達成に向けた成長軌道



# STN1014300: 糖尿病黄斑浮腫を対象とした中国P3試験結果

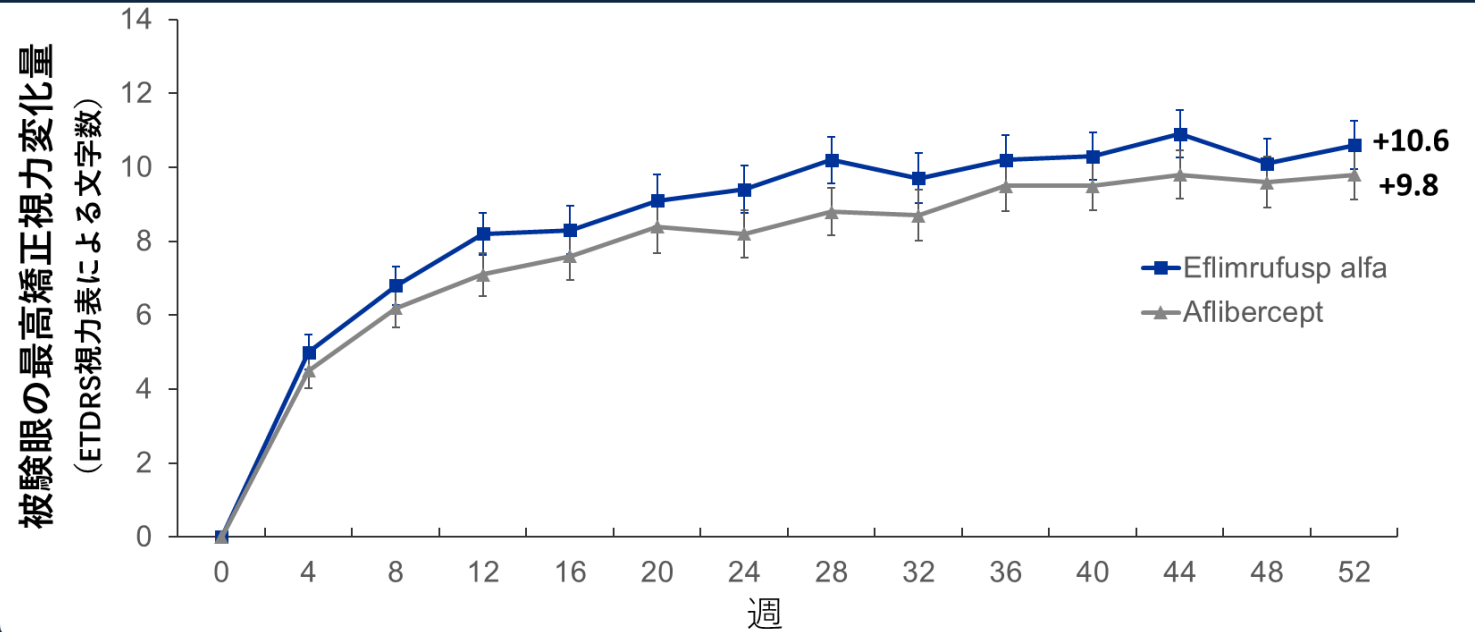
## STN1014300とその作用機序

- VEGF-AとFGF-2を同時に阻害する二重特異性IgG1融合タンパク質の硝子体内注射製剤
- FGFは血管新生及び線維化/癒痕化形成に関与すると考えられている



Biomolecules. 2019 Oct 24; 9(11): 644

## ベースラインからの最高矯正視力の経時変化 (FAS) (最小二乗平均±標準誤差)



- 糖尿病黄斑浮腫においてEflimrufusp alfa (2mg、8週毎投与) は、52週時の最高矯正視力の改善についてアフリベルセプト (2mg、8週毎投与) に対する非劣性を示し、主要評価項目を達成
- Eflimrufusp alfaはアフリベルセプトと同等の眼及び眼以外での安全性を示し、良好な忍容性を確認
- RemeGen社より2025年9月に、糖尿病黄斑浮腫に対する生物製剤承認を申請済み。滲出型加齢黄斑変性に対するP3実施中、2026年度にTLR取得予定

# 2026年度に期待される自社製品に関する主なイベント

データリードアウト

申請

承認

上市

## 未参入市場 への参入

網膜疾患

Eflimrufusp alfa (wAMD)  
STN1014301, China

## 新規市場の 創出

眼瞼下垂

近視

翼状片 等

ニンテダニブ  
P2b  
STN1014200, Japan

オキシメタゾリン塩酸塩  
P3  
STN1013800, Europe

アトロピン硫酸塩  
STN1012700, China

オキシメタゾリン塩酸塩  
STN1013800, Asia/China

アトロピン硫酸塩  
STN1012700, Asia

アップニークミニ  
STN1013800, Japan

## 既存市場の 拡大

緑内障

アレルギー性結膜炎

ドライアイ 等

ネタルスジルメシル酸塩  
/ラタノプロスト  
P3  
STN1014003, Japan

エピナスチン塩酸塩 (眼瞼クリーム)  
P3  
STN1011402, China

オロダテロール塩酸塩  
P2b  
STN1014100, Japan

オロダテロール塩酸塩  
P1/2a  
STN1014101, Japan

オミデネパグ イソプロピル  
STN1011702, China

ラタノプロスト  
カチオニック乳化剤  
STN1013001, Asia

エピナスチン塩酸塩  
(1日2回点眼)  
STN1011403, China

ネタルスジルメシル酸塩  
STN1013900, Japan

ここに明記してあるパイプラインは各パートナー企業と開示が合意されたもののみであり、予定されているすべてのパイプライン、開発地域が明示されているわけではありません。スケジュールは2026年3月31日時点で想定しているベストケースであり、上市を確約するものではありません。

# 2025年度通期実績

	2024年度	2025年度
USD (円)	152.70	150.79
EUR (円)	163.57	174.71
CNY (円)	21.29	21.29

(単位：億円)

	2024年度		2025年度								
	実績	対売上 収益比率	Q1 QTD	Q2 QTD	Q3 QTD	Q4 QTD	実績	対売上 収益比率	対前期 増減率	通期予想	対通期予想 比率
<b>売上収益</b>	3,000	-	687	691	729	809	<b>2,916</b>	-	<b>-2.8%</b>	2,940	99.2%
売上原価	1,290	43.0%	316	291	321	291	1,219	41.8%	-5.5%	1,230	99.1%
<b>売上総利益</b>	1,710	57.0%	371	401	407	518	<b>1,697</b>	<b>58.2%</b>	<b>-0.8%</b>	1,710	99.3%
販売費及び一般管理費	875	29.2%	212	213	223	242	890	30.5%	+1.7%	920	96.8%
研究開発費	241	8.0%	62	62	60	72	256	8.8%	+6.1%	250	102.3%
<b>コア営業利益</b>	594	19.8%	97	126	125	203	<b>551</b>	<b>18.9%</b>	<b>-7.1%</b>	540	<b>102.1%</b>
ノンコア費用	4	0.1%	-	-	-	12	12	0.4%	+173.2%	-	-
製品に係る無形資産償却費	88	2.9%	22	23	22	21	88	3.0%	-0.4%	87	100.8%
その他の収益	6	0.2%	2	2	-1	67	70	2.4%	-	7	996.9%
その他の費用	39	1.3%	1	2	-1	42	44	1.5%	+14.0%	20	219.7%
<b>営業利益</b>	469	15.6%	76	103	103	196	<b>478</b>	<b>16.4%</b>	<b>+2.0%</b>	440	108.6%
金融収益	40	1.3%	6	3	6	4	16	0.6%	-59.1%	13	126.1%
金融費用	27	0.9%	7	4	4	7	20	0.7%	-26.6%	14	142.5%
持分法による投資損失	7	0.2%	-	-	-	-	-	-	-100.0%	-	-
税引前当期利益	475	15.8%	75	102	104	194	474	16.3%	-0.1%	439	108.1%
法人所得税費用	116	3.9%	16	22	23	38	99	3.4%	-15.0%	104	95.0%
(税負担率)	25%	-					21%	-	-3.7pt	24%	-
<b>当期利益</b>	359	12.0%	59	80	81	156	<b>376</b>	<b>12.9%</b>	<b>+4.8%</b>	335	112.1%
親会社帰属当期利益	363	12.1%	59	81	79	156	374	12.8%	+3.1%	340	109.9%
EPS (円)	104	-					114	-	+9.7%	103	<b>111.1%</b>
EBITDA	681	-					636	-	-6.6%		

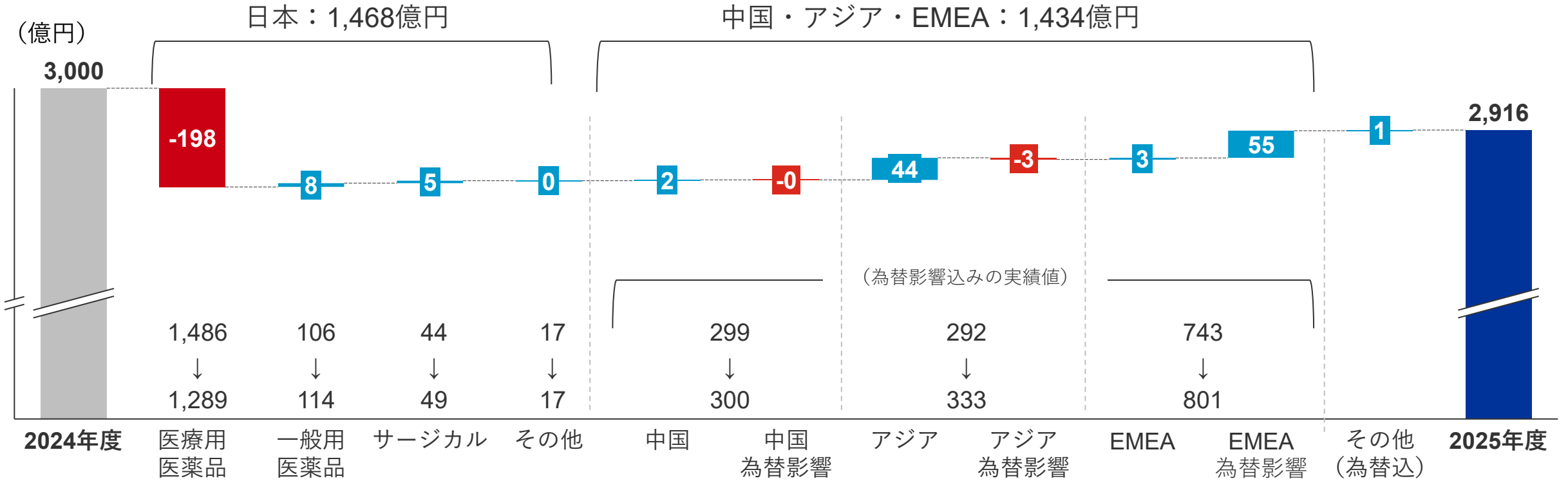
## 対通期予想比

- すべての段階利益、及びEPSは予想を上回り着地

## 対前期比

- 売上収益  
日本、中国は調整局面にて減収  
アジア、EMEA成長でカバーに至らず
- 販売費及び一般管理費  
メリハリのある支出により  
為替影響を除くと微減 (-0.9%)
- 研究開発費  
パイプライン進捗に伴う増加
- コア営業利益  
レジリエントなP&L構造により  
減益幅を最小限にとどめる

# 2025年度売上収益増減要因



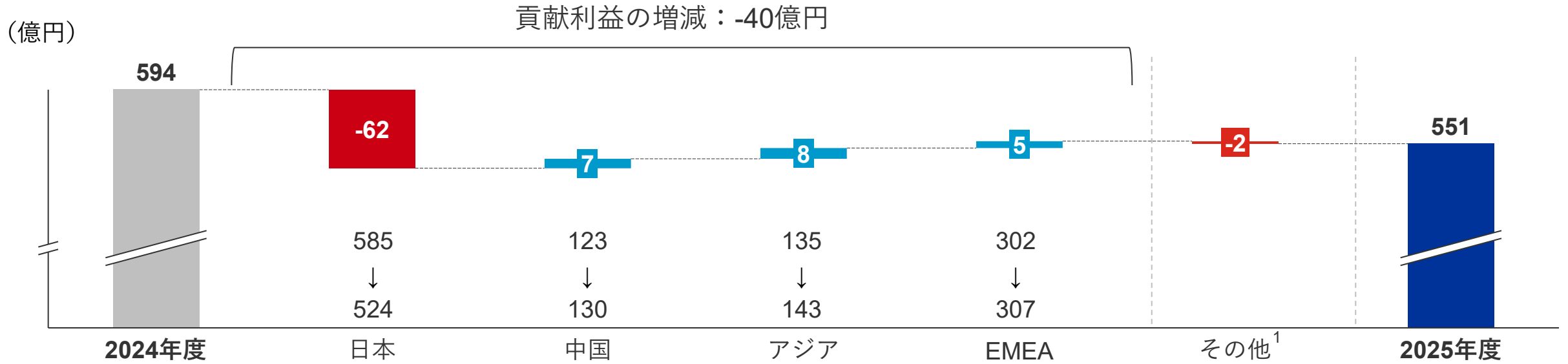
日本 対前期 -11.2%：後発品上市やアイリーアの市場拡大再算定等、薬価引き下げによる主力品の売上減少

中国 対前期 +0.5%（為替影響除外 +0.6%）：流通在庫水準（クラビット、ヒアレイン）の正常化により回復基調

アジア 対前期 +14.0%（為替影響除外 +15.2%）：緑内障やドライアイ製品の堅調な推移に加え、12月からの韓国販売提携品（抗VEGF薬）が貢献し増収

EMEA 対前期 +7.8%（為替影響除外 +0.4%）：24年度の技術導出による一過性収益を含めても、緑内障やドライアイ製品の成長により増収

# 2025年度コア営業利益増減要因



地域事業  
貢献利益の増減

## 日本

製品構成の変化による売上総利益率の改善及び費用最適化により減益幅を最小化

## 海外（為替影響込み）

堅調な需要に対して、既存製品の価値最大化により増益。費用適正化により貢献利益率改善<sup>2</sup>  
 （26年度は新製品早期最大化により利益成長を加速）

その他増減

研究開発費用等の増加による影響

	2025年度	2026年度
	通期実績	通期予想
USD (円)	150.79	155.00
EUR (円)	174.71	180.00
CNY (円)	21.29	23.00

## 2026年度通期業績予想

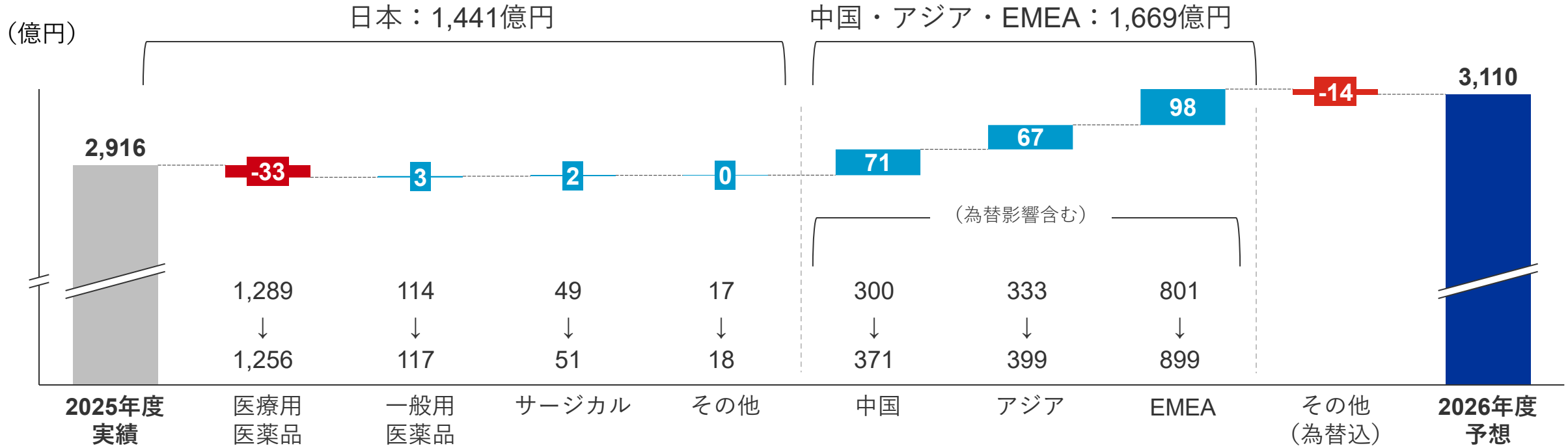
(単位：億円)	2025年度		2026年度		
	実績	対売上 収益比率	予想	対売上 収益比率	対前期 増減率
<b>売上収益</b>	2,916	-	<b>3,110</b>	-	<b>+6.6%</b>
売上原価	1,219	41.8%	1,250	40.2%	+2.6%
<b>売上総利益</b>	1,697	58.2%	<b>1,860</b>	<b>59.8%</b>	<b>+9.6%</b>
販売費及び一般管理費	890	30.5%	995	32.0%	+11.8%
研究開発費	256	8.8%	275	8.8%	+7.6%
<b>コア営業利益</b>	551	18.9%	<b>590</b>	<b>19.0%</b>	<b>+7.0%</b>
ノンコア費用	12	0.4%	10	0.3%	-13.5%
製品に係る無形資産償却費	88	3.0%	77	2.5%	-12.2%
その他の収益	70	2.4%	2	0.1%	-97.1%
その他の費用	44	1.5%	10	0.3%	-77.2%
<b>営業利益</b>	478	16.4%	<b>495</b>	<b>15.9%</b>	<b>+3.6%</b>
金融収益	16	0.6%	18	0.6%	+9.8%
金融費用	20	0.7%	15	0.5%	-24.8%
税引前当期利益	474	16.3%	498	16.0%	+5.0%
法人所得税費用	99	3.4%	103	3.3%	+4.2%
(税負担率)	21%	-	21%	-	-
<b>当期利益</b>	376	12.9%	<b>395</b>	<b>12.7%</b>	<b>+5.2%</b>
親会社帰属当期利益	374	12.8%	400	12.9%	+7.0%
ROE	13%	-	13%	-	-
EPS (円)	114	-	124	-	+9.1%

- 売上収益、コア営業利益は25年度に底入れ。成長軌道へ
- 新製品早期最大化、及び海外での既存製品最大化により売上収益・利益進捗は下半期偏重。25年度と同様の傾向

### 前期比差異要因

- 売上収益  
海外：対前期+16.4%（為替要因を除いた成長率は中国+14.5%、アジア+19.2%、EMEA+9.0%）  
日本：新製品は‘急拡大より定着’を優先。中期的な成長ドライバーを創出
- 売上原価  
製品構成変化等により原価率は対前期2pt低下
- 販売費及び一般管理費  
適正なコスト管理をしつつも新製品販売促進等により一時的に対売上収益比率微増（中期的には30%以下に抑制）
- 研究開発費  
製品創製力強化のため積極支出と効率化を両立
- コア営業利益  
レジリエントなP&L構造により費用増加を吸収し、25年度並みのマージンと増益を確保
- EPS  
124円に上昇

# 2026年度売上収益予想増減要因



日本 対前期 -1.9%：リジュセア、アップニーク、緑内障領域新製品、及び25年度に出荷を再開したジクアスLXの通期での寄与により25年度並みを維持

中国 対前期 +23.5%（為替影響除外 +14.5%）：在庫調整局面からクラビット、ヒアレイン、Alphaganを含む緑内障製品等による成長軌道へ

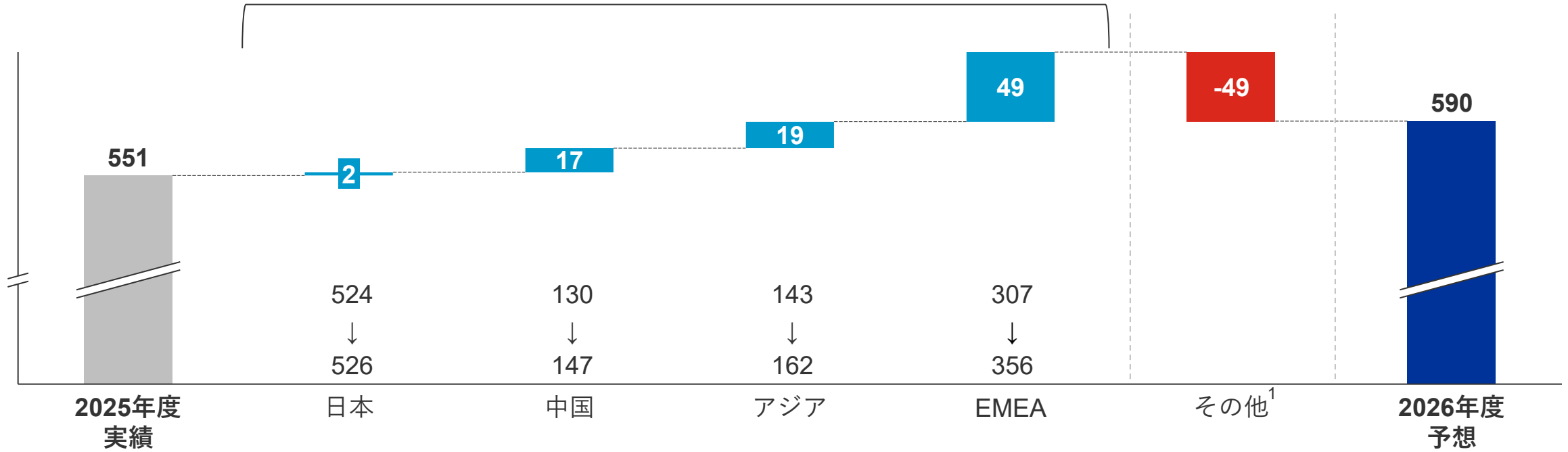
アジア 対前期 +20.1%（為替影響除外 +19.2%）：主要市場での緑内障やドライアイ製品に加えて、韓国でのベオビュ等による成長加速化

EMEA 対前期 +12.2%（為替影響除外 +9.0%）：Ryjuneaや緑内障新製品、ドライアイ製品の伸長を見込む

# 2026年度コア営業利益予想増減要因

(億円)

貢献利益の増減：+88億円



地域事業  
貢献利益の増減

日本：新製品やジクアスLXの売上構成比増加に伴い売上総利益率が改善し増益（成長率：+0.5%）  
 海外：アジア/中国における販売提携品により売上総利益率は低下するものの、売上成長に伴い増益  
 （成長率（為替影響除外）：中国 +13.0% (+4.6%)、アジア +13.2% (+13.1%)、EMEA +16.1% (+12.4%)）

その他増減

研究開発費用の増加等

13 1 各地域およびグローバルでのR&Dや間接部門等の費用等、および上記以外の地域に関連する貢献利益

# 2025-2029年度中期経営計画資本配分

事業開発や研究開発等、製品創製への資源投下を最優先。

株主還元は、利益成長に応じた増配（累進配当方針）と、余資水準や株価水準に応じた自己株式取得

ストック + インフロー

アウトフロー

資金需要に応じて調達による  
インフロー拡大をはかる



使途



金額

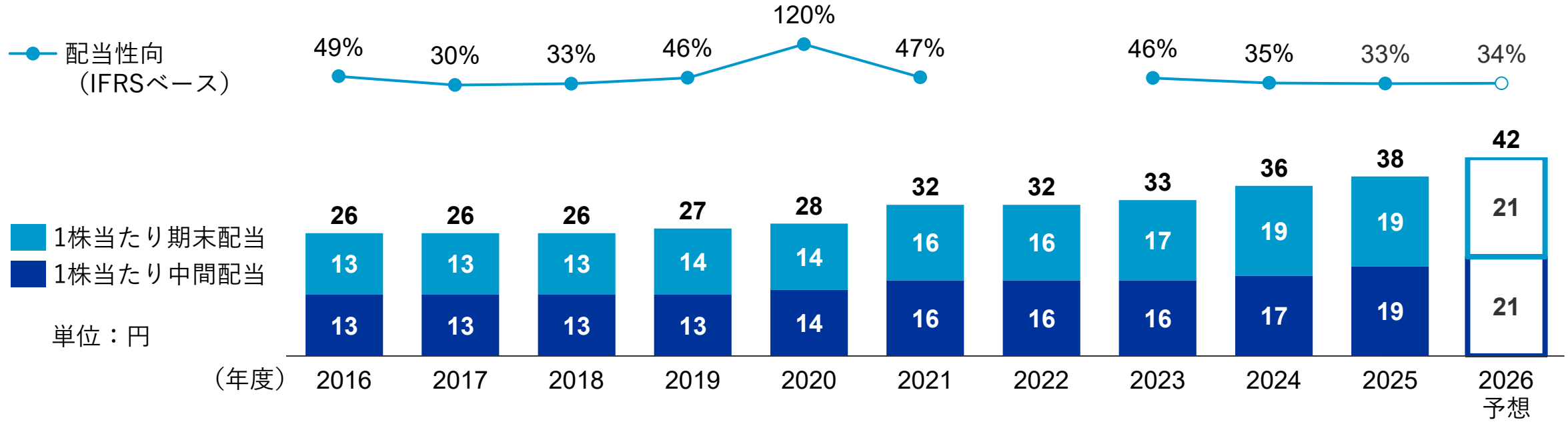


考え方

- 生産キャパシティ拡充に向けた工場・設備への投資等
- これまで以上の資金を優先的に確保
- シーズ探索・パイプライン/LCM製品開発への投資強化
- 海外市場リーディングポジション強化に資する資源獲得
  - 短中期成長モメンタムの維持、地域製品の強化
- 30年度以降を見据えた将来成長の源泉を確保
  - 強みが発揮できる差別化されたパイプラインの獲得
  - 早期パイプライン/開発テーマの創出
- 有望な投資機会が無い場合に、自社株買いを実施
  - 必要運転資金 (450~500億円) を確保
  - 投資機会の有無と将来CF見込みを考慮し自己株式取得の余裕資金があるか確認
  - 株価水準を鑑み、最終的な自己株式取得の要否を判断
- 利益成長に応じた累進配当を継続。26年度は一株当たり4円増配予定
  - 配当性向40%を目途

# 株主還元

継続的な事業成長への自信から、年間42円/株に増額（年間4円増配）



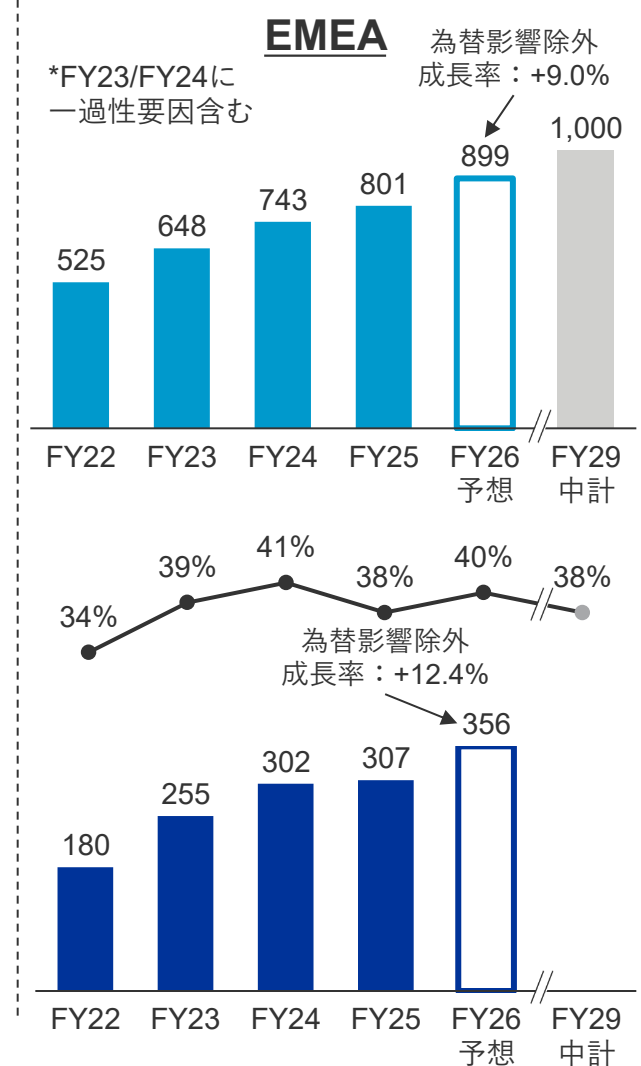
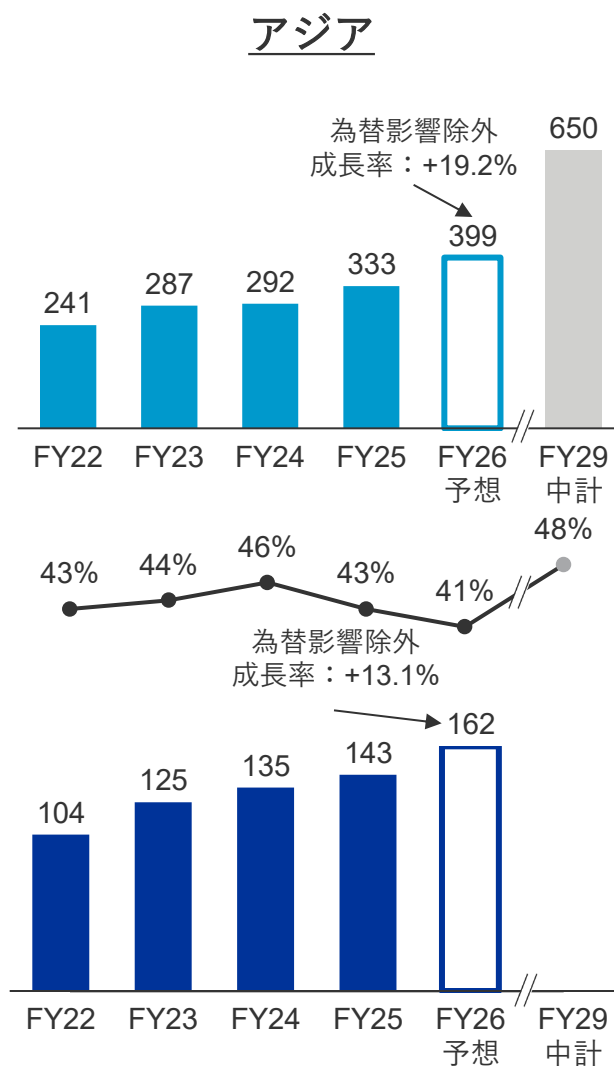
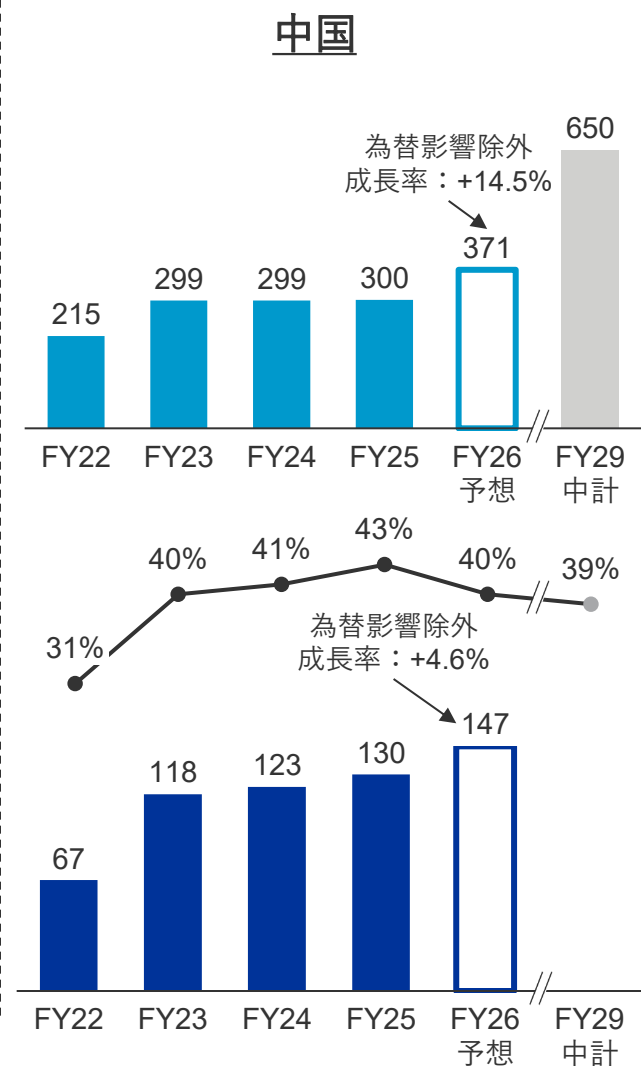
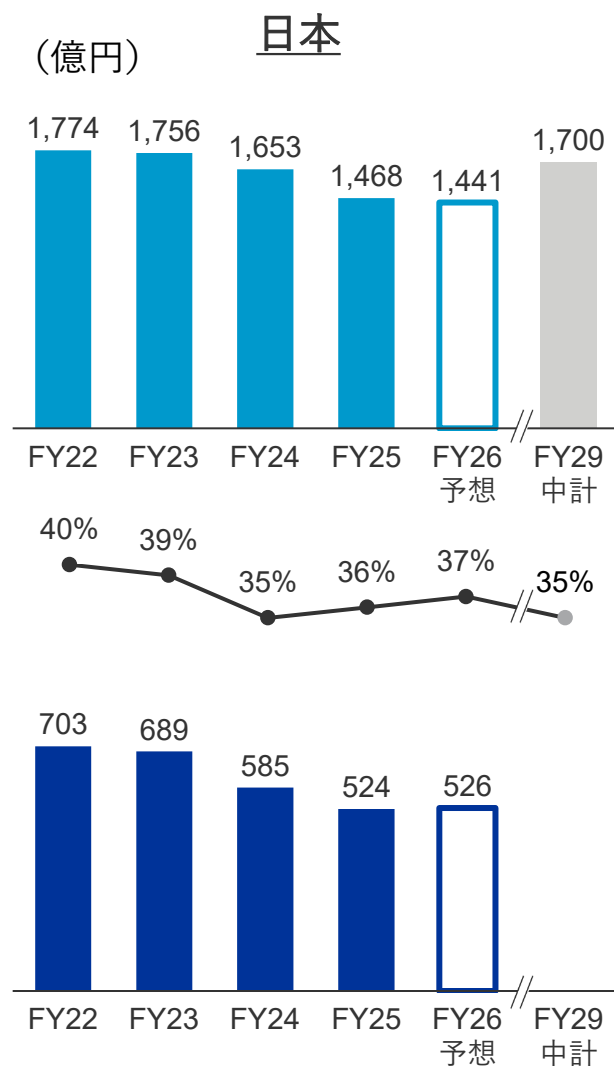
総還元性向 (IFRSベース)	106%	30%	76%	46%	120%	47%	-	106%	137%	118%
自己株式取得金額 <sup>1</sup> (発行済株式に占める割合 <sup>2</sup> )	123億円 (2%)	-	139億円 (2%)	-	-	-	257億円 (6%)	162億円 (3%)	371億円 (6%)	319億円 (6%)

15 1 市場買い付けにより取得した金額 2 各年度の前期末の発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合

# Appendix

# 地域別売上収益・貢献利益

■ 売上収益 ■ 貢献利益 ● 貢献利益率

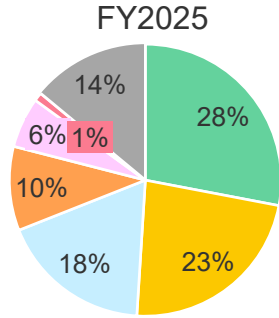


17 貢献利益：各地域の売上収益からその地域の売上原価および売上創出に関連する費用を控除したものの。貢献利益の算出には各地域事業に直接貢献する売上収益を用いており、必ずしも仕向地別売上収益と一致しておりません。2023年度に実施した海外地域の組織変更影響を反映しています。香港は2023年度まではアジアに、2024年度以降は中国に分類されています。

# 2025年度仕向地域別売上収益

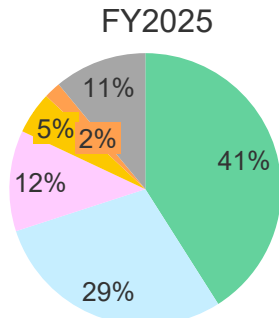
## 連結合計

YTD	FY2024 (参考)	FY2025
アイリーア硝子体内注射液 <sup>1</sup>	781億円	656億円
コソプト配合点眼液	268億円	282億円
アレジオン点眼液 <sup>2</sup>	317億円	268億円
その他	1,635億円	1,710億円
合計	3,000億円	2,916億円



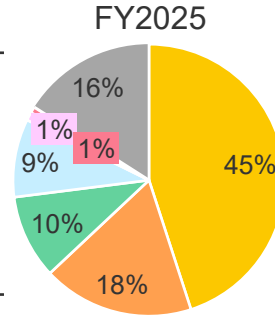
## アジア

YTD	FY2024 (参考)	FY2025
コソプト配合点眼液	69億円	72億円
ヒアレイン点眼液	39億円	45億円
クラビット点眼液	29億円	30億円
その他	155億円	186億円
合計	292億円	333億円



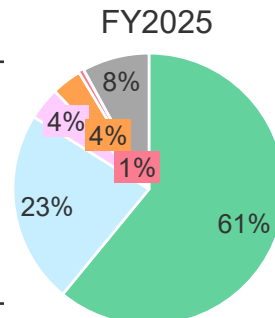
## 日本

YTD	FY2024 (参考)	FY2025
アイリーア硝子体内注射液 <sup>1</sup>	781億円	656億円
アレジオン点眼液 <sup>2</sup>	314億円	264億円
ジクアス点眼液(ジクアスLX含む)	65億円	79億円
その他	494億円	468億円
合計	1,653億円	1,468億円



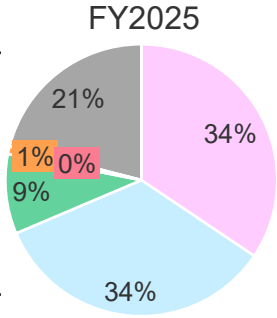
## EMEA

YTD	FY2024 (参考)	FY2025
コソプト配合点眼液	173億円	192億円
Ikervis	91億円	114億円
タプロス点眼液	83億円	86億円
その他	396億円	409億円
合計	743億円	801億円

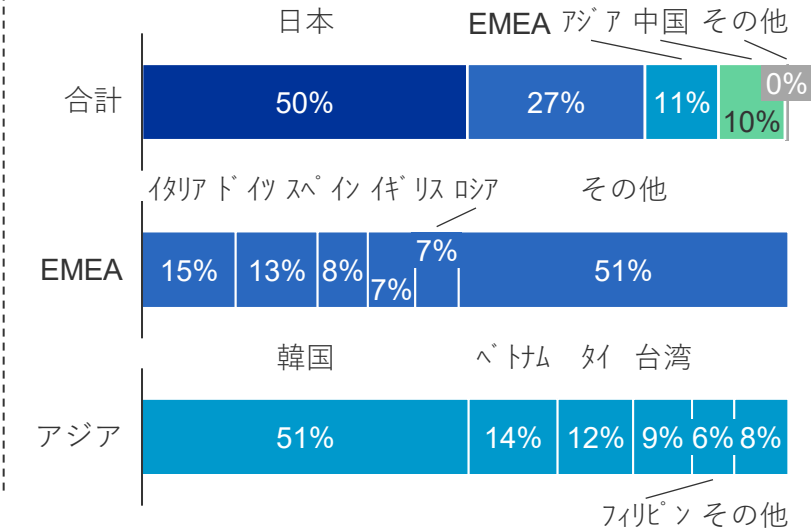


## 中国

YTD	FY2024 (参考)	FY2025
クラビット点眼液	85億円	89億円
ヒアレイン点眼液	83億円	82億円
タプロス点眼液	25億円	26億円
その他	106億円	103億円
合計	299億円	300億円



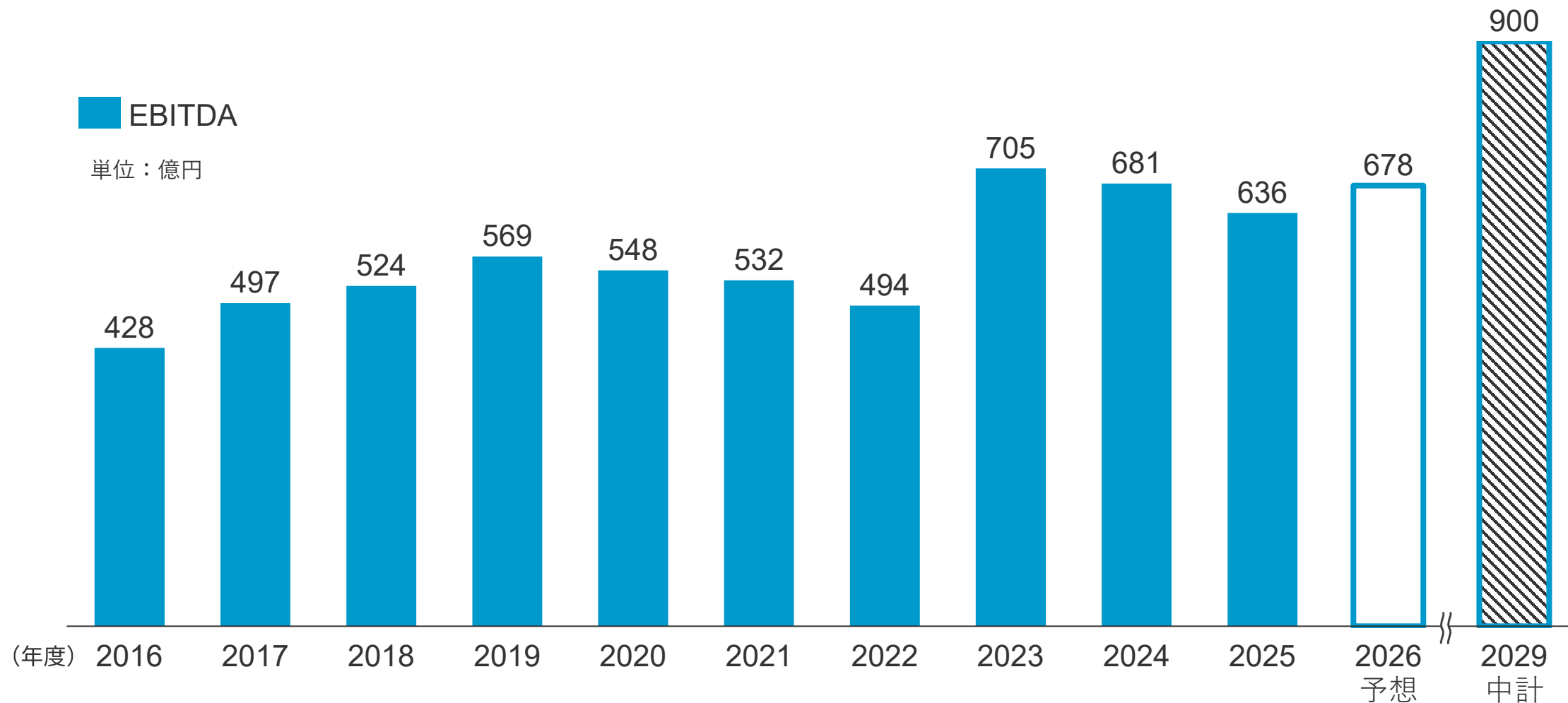
## 主要国・地域別売上比率 (FY2025)



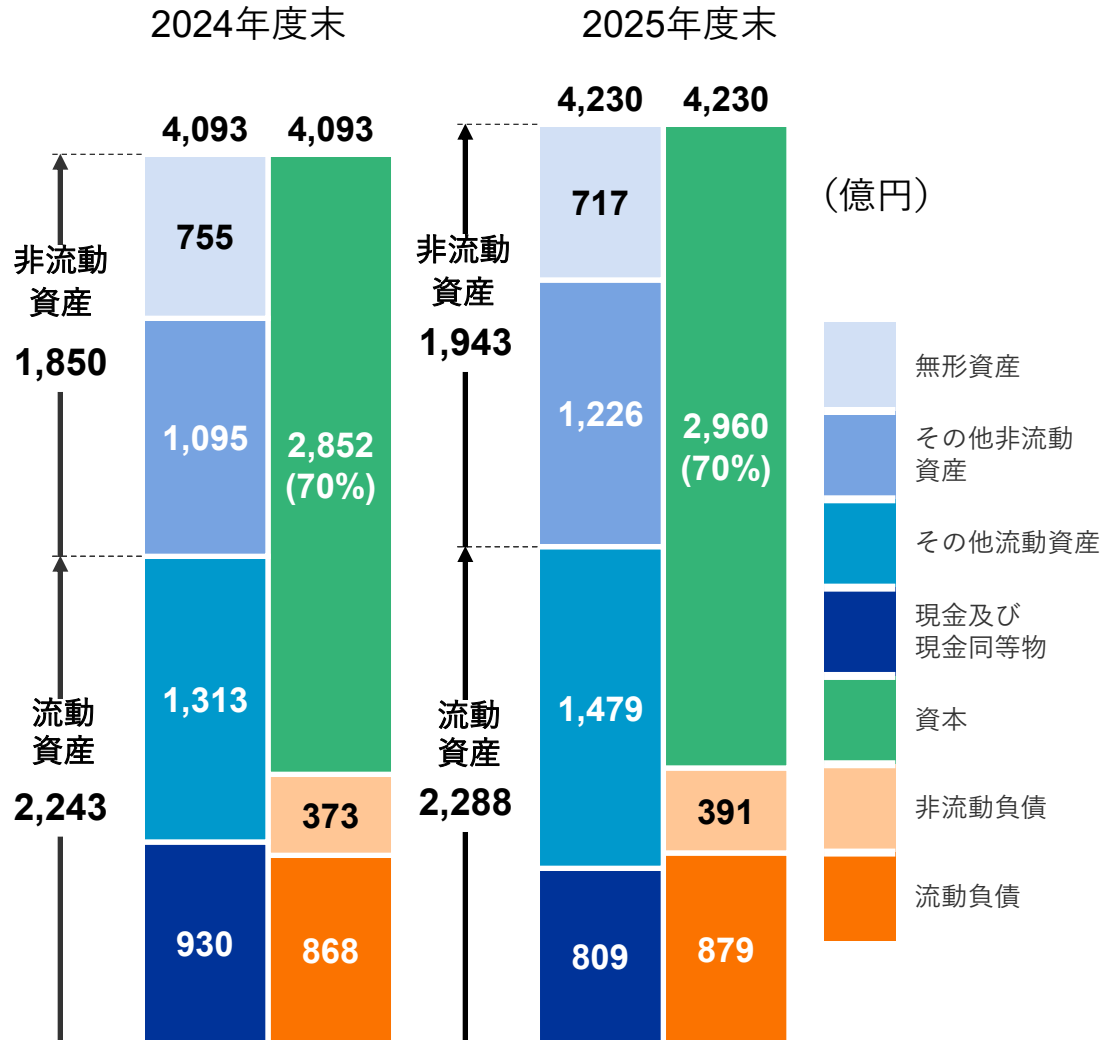
■ 緑内障治療薬/デバイス   
 ■ 角結膜疾患治療剤   
 ■ 抗菌点眼剤   
 ■ その他  
■ 眼科用抗VEGF阻害剤   
 ■ 抗アレルギー点眼液   
 ■ 近視進行抑制治療剤

# EBITDA

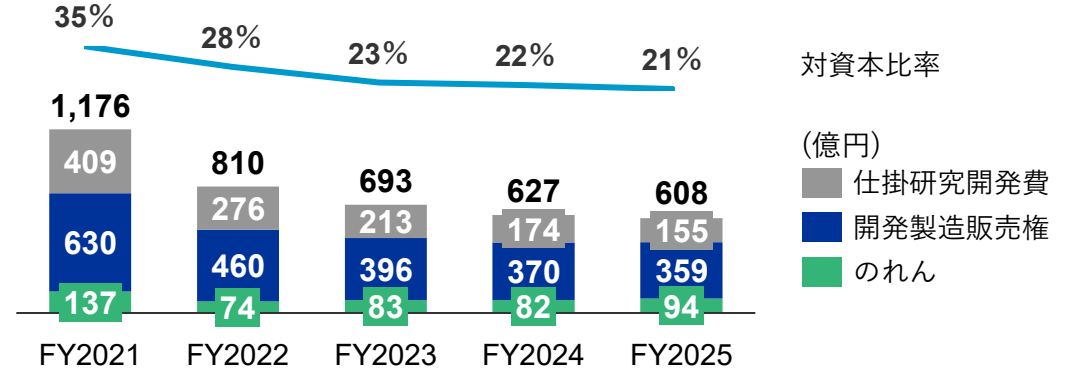
増収増益基調への回復により安定的なキャッシュ創出力向上



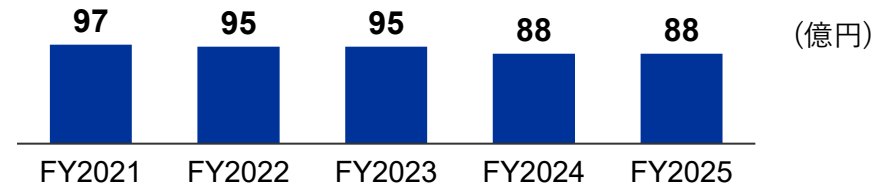
# B/Sを含む財務状況



## 製品に係る無形資産・のれんの状況



## 製品に係る無形資産償却費の状況



## ROE・ROIC・CCC<sup>1</sup>

	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026 予想 <sup>2</sup>
ROE	8%	-	9%	12%	13%	13%
ROIC	12%	-	16%	18%	19%	18%
CCC	190日	194日	167日	170日	223日	210日

# キャッシュ・フロー

2021年度末

2022年度末

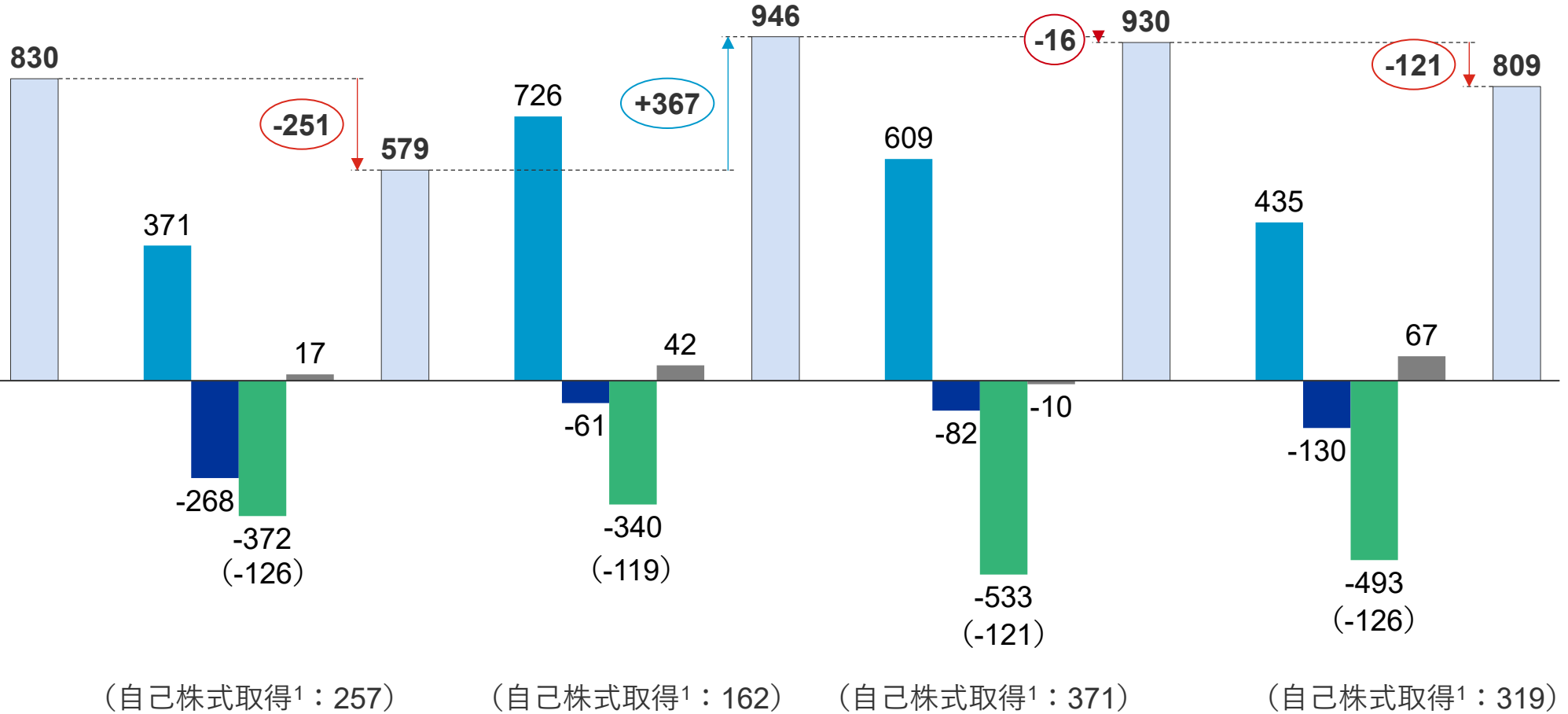
2023年度末

2024年度末

2025年度末

(億円)

- 営業CF
- 投資CF
- 財務CF (内 配当金)
- 為替変動
- 残高



# 外国為替レート前提と感応度

## 為替レート前提

(円)

	2024年度 通期実績	2025年度 通期実績	2025年度 vs 2024年度	2025年度 通期予想	2026年度 通期予想
USD	152.70	150.79	98.7%	145.00	155.00
EUR	163.57	174.71	106.8%	160.00	180.00
CNY	21.29	21.29	100.0%	20.50	23.00

## 為替感応度

2026年度業績予想における予想レート比1%円安時の影響

(億円)

	合計 <sup>1</sup>	USD	EUR	CNY
売上収益	+15	+0.3	+8.1	+3.6
コア営業利益	+2	-0.4	+1.2	+0.8
営業利益 (IFRS)	+2	-0.6	+1.0	+0.8

<sup>1</sup> 上記3通貨にその他主要通貨を加えた主要通貨における合計値 (小数点以下四捨五入)

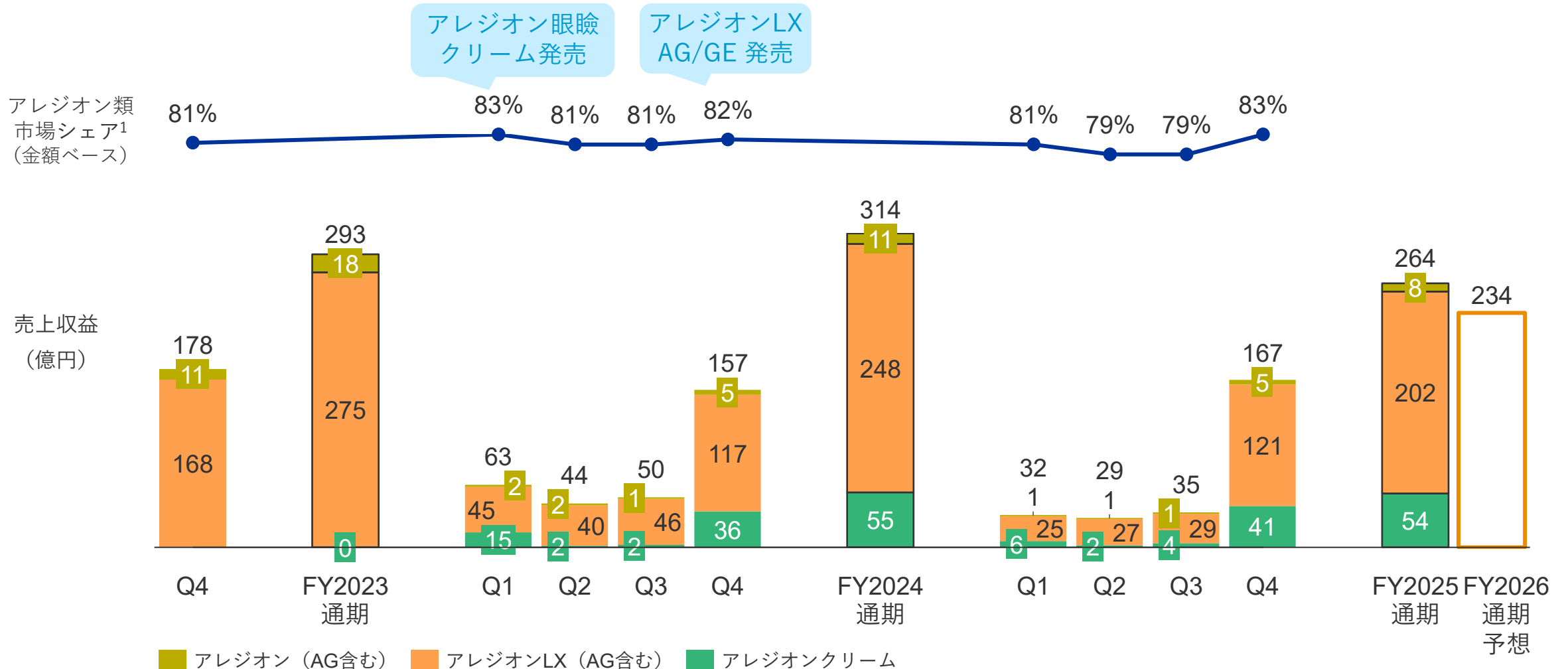
2025年度実績為替影響

(対前期レート)

(億円)

	合計
売上収益	+51
コア営業利益	+4
営業利益 (IFRS)	+2

# 日本でのアレジオン類の現状

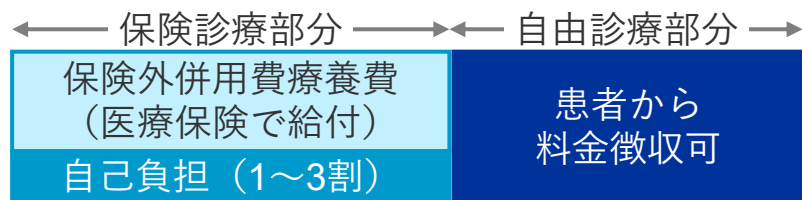


# 選定療養について（日本）

- 保険診療と自由診療の併用（混合診療）は原則禁止



- 保険外併用療養費制度の対象となったもののみ保険診療との併用が可能



保険診療との併用が認められている療養

- 評価療養（先進医療など）
- 患者申出療養（国内未承認の医薬品等）
- 選定療養（長期収載品など）

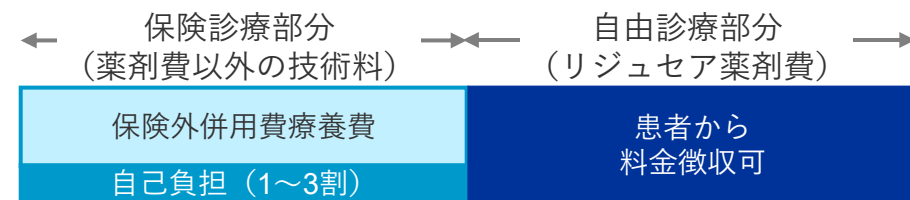
## 例）後発医薬品がある先発医薬品（長期収載品）の選定療養

- 2024年10月より後発医薬品薬価収載後5年経過もしくは後発医薬品置換え率50%以上の先発医薬品長期収載品の処方患者が希望する場合は、特別の料金を患者が負担
- Santenの対象品目については次頁参照



## 近視進行抑制治療薬の選定療養への追加について

- 2026年1月中央社会保険医療協議会にて近視進行抑制治療薬の選定療養への追加が了承された
- 2月の答申を経て、3月に厚生労働省告示が正式に発出、6月に施行される見込み



## 選定療養制度の対象となった長期収載品（～2026年3月31日）

対象品目は18品目（濃度違い含む。～2026年3月31日）

（単位：億円）

品目	領域	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
ヒアライン0.1/0.3 <sup>1</sup>	角膜/ドライアイ	58	49	43	38	27
コンプト <sup>1</sup>	緑内障	50	40	33	24	15
アレジオン（4回点眼）	アレルギー	44	30	18	9	5
クラビット0.5/1.5	抗菌剤	18	13	11	7	4
チモプトールXE 0.25/0.5	緑内障	33	31	27	18	15
チモプトール0.25/0.5	緑内障					
アレギサル	アレルギー					
リボスチン	アレルギー					
フルメトロン0.1	その他					
サンテゾーン0.02/0.1	その他					
サンコバ	その他					
ミドリンM	その他					
オペガン 1.1	その他					
合計						
日本事業合計		1,736	1,774	1,756	1,653	1,468
日本事業合計における対象品目比率		<b>11.7%</b>	<b>9.2%</b>	<b>7.5%</b>	<b>5.8%</b>	<b>4.6%</b>

## 選定療養制度の対象となった長期収載品（2026年4月1日～）

対象品目は17品目（濃度違い含む。2026年4月1日時点。2026年6月1日～も変更無し）

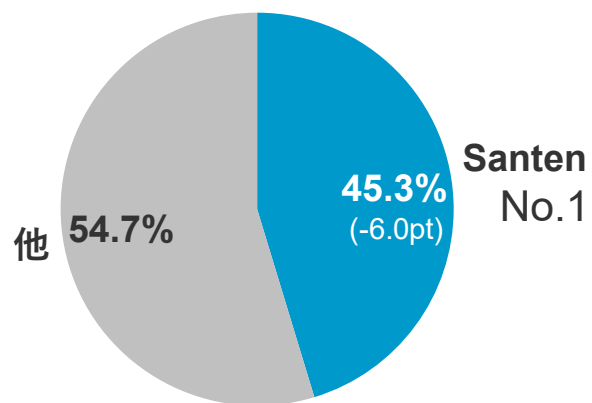
将来的にはジクアスやタプコムなどの後発品が出ている品目も対象になることを想定

（単位：億円）

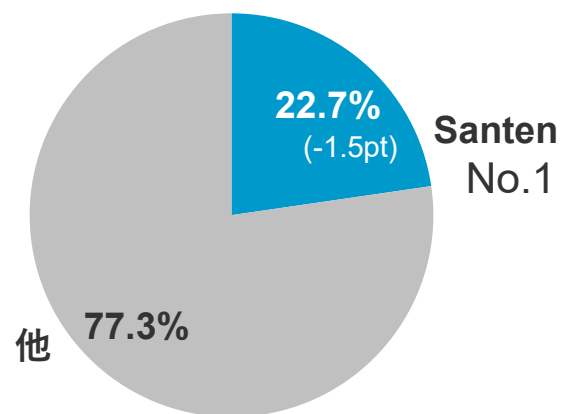
品目	領域	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026 予想
アレジオン 0.05/0.1	アレルギー	293	334	293	173	49	25
ヒアレイン 0.1/0.3 <sup>1</sup>	角膜/ドライアイ	58	49	43	38	27	18
タプロス <sup>1</sup>	緑内障	77	70	52	28	18	11
コソプト <sup>1</sup>	緑内障	50	40	33	24	15	9
クラビット 0.5/1.5	抗菌剤	18	13	11	7	4	3
チモプトールXE 0.25/0.5	緑内障	32	30	26	17	15	12
チモプトール 0.5	緑内障						
リボスチン	アレルギー						
アレギサール	アレルギー						
サンコバ	その他						
フルメترون 0.1	その他						
オペガン 1.1	その他						
サンテゾーン 0.1	その他						
合計							
日本事業合計		1,736	1,774	1,756	1,653	1,468	1,441
<b>日本事業合計における対象品目比率</b>		<b>30.4%</b>	<b>30.3%</b>	<b>26.1%</b>	<b>17.4%</b>	<b>8.8%</b>	<b>5.5%</b>

# 日本医療用眼科薬 市場概況 (2025年4月-2026年3月累計)

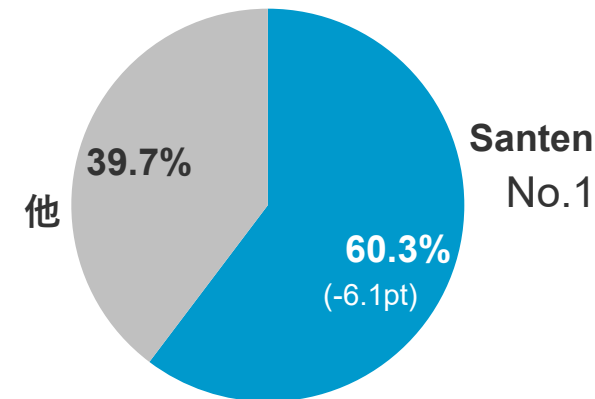
**Total : 3,552億円**



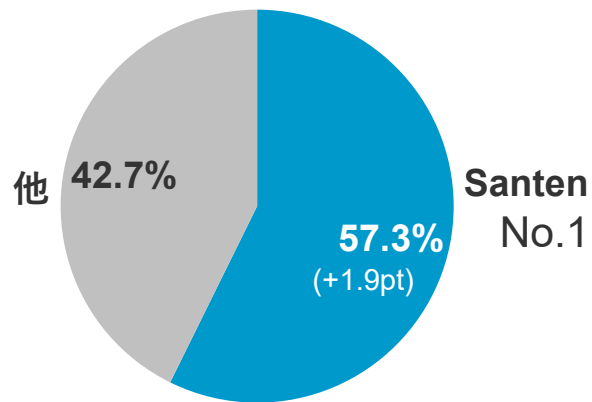
**抗緑内障剤 : 715億円**



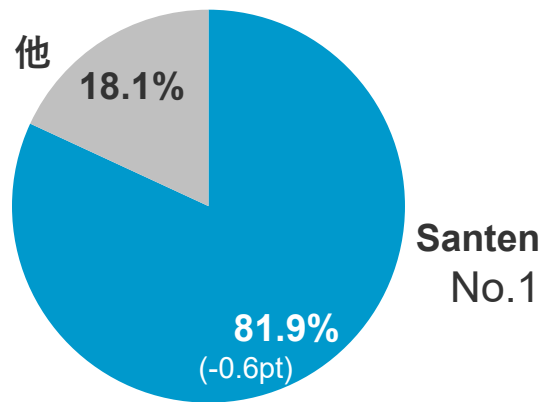
**網膜疾患治療剤\* : 1,367億円**



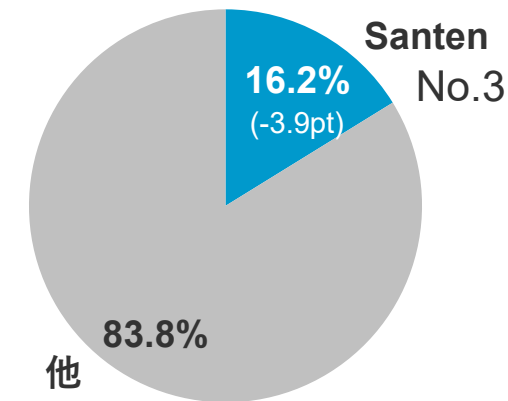
**角膜疾患治療剤 : 285億円**



**抗アレルギー剤 : 399億円**

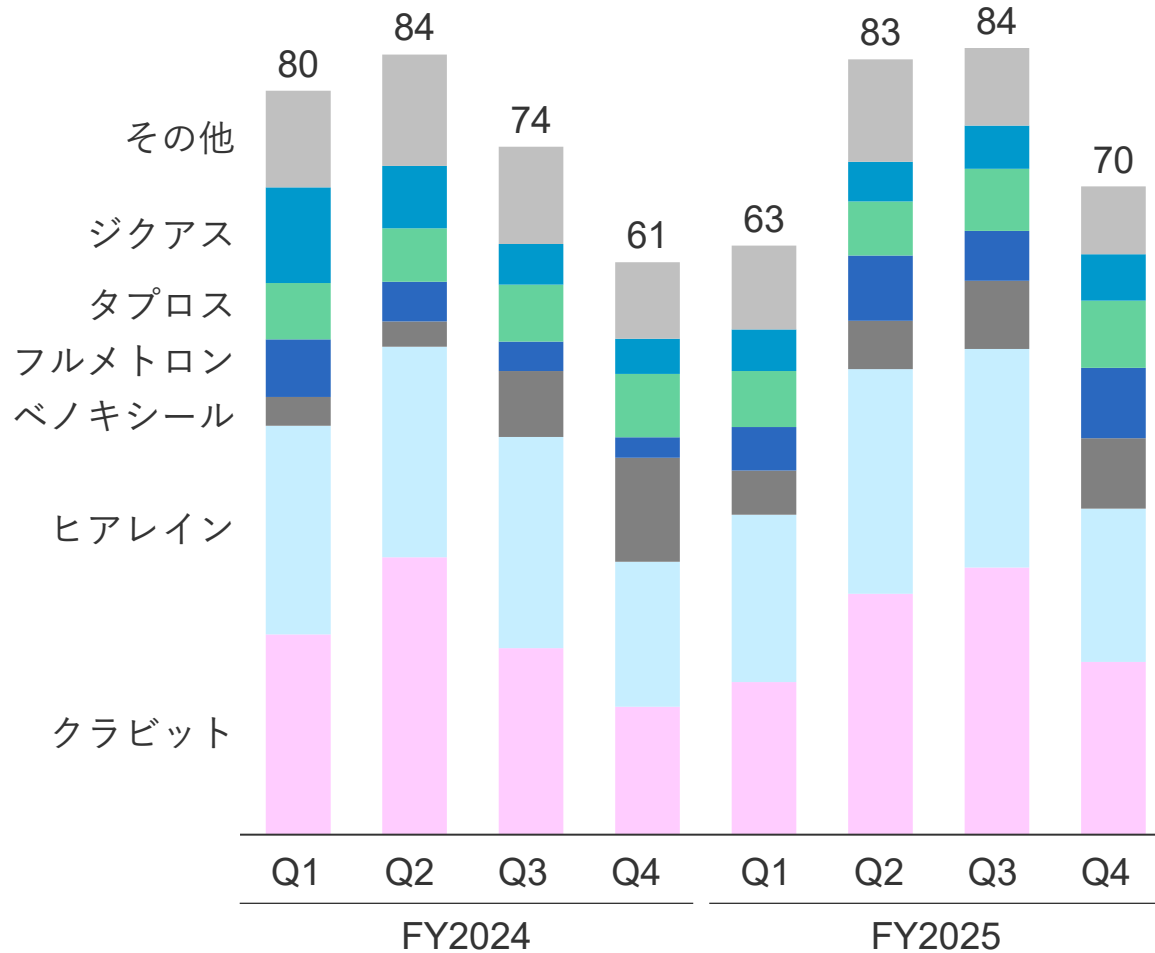


**抗菌点眼剤 : 48億円**

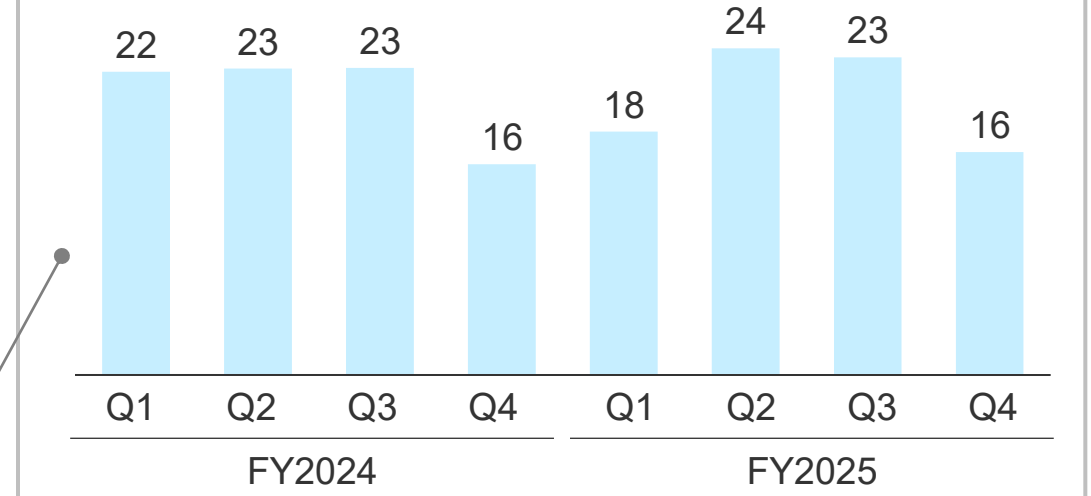


# 中国売上推移

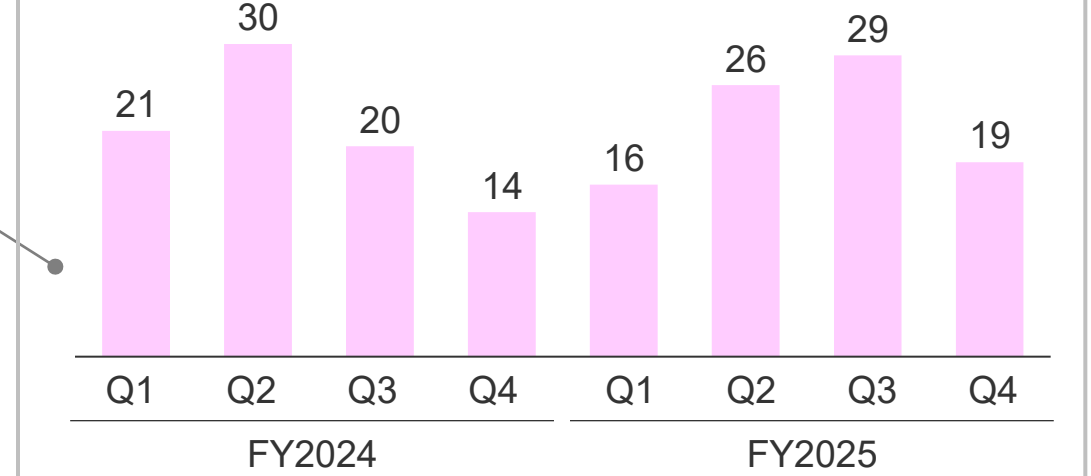
中国四半期別売上推移（億円）



中国ヒアレイ四半期別売上推移（億円）

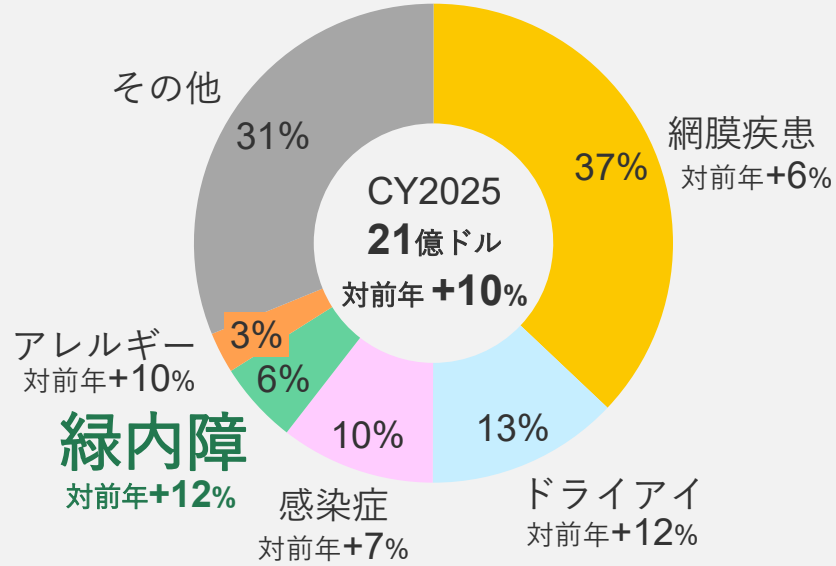


中国クラビット四半期別売上推移（億円）

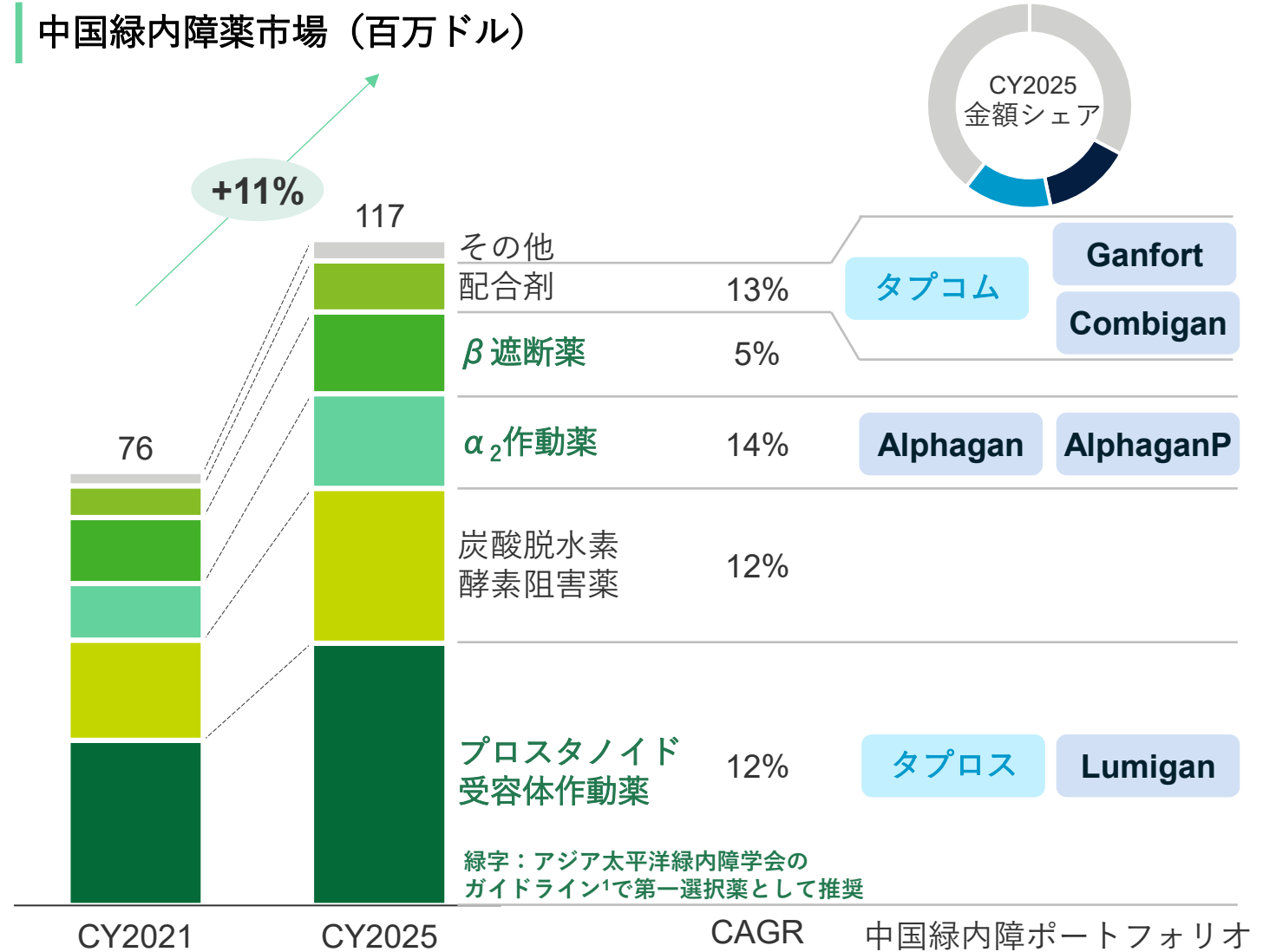


# 中国医療用眼科薬市場

## 中国医療用眼科薬市場



## 中国緑内障薬市場 (百万ドル)



SantenはAbbVieと、5つの上市済み緑内障点眼薬の中国本土における流通と販売促進に関する契約を締結しました。本契約に基づき、Santen中国は、Alphagan®、AlphaganP®、Lumigan®、Ganfort®、Combigan®の独占的な流通権をAbbVieより取得し、販売促進活動を行います。

出典：Copyright © 2026 IQVIA. IQVIA MIDAS 2021.1Q-2025.4Qを基に当社分析 無断転載禁止

1 Asia-Pacific Glaucoma Guidelines, 4th Edition. 2024

# 2025年度R&Dサマリー

臨床試験

申請

承認

上市

## 未参入市場 への参入

網膜疾患

Eflimrufusp alfa (DME<sup>1</sup>)  
STN1014300, China

## 新規市場の 創出

近視  
眼瞼下垂  
翼状片  
FECD<sup>2</sup> 等  
MGD<sup>3</sup>

ニンテダニブ  
P2b開始  
STN1014200, Japan

シロリムス  
P2a終了、開発中止  
STN1010904, US/France/India

シロリムス  
追加P2a終了、開発中止  
STN1010905, Japan

アトロピン硫酸塩  
STN1012700, Asia

アップニークミニ  
STN1013800, Japan

リジュセアミニ  
STN1012700, Japan

Ryjunea  
STN1012701, Europe

## 既存市場の 拡大

緑内障  
春季カタル  
アレルギー性結膜炎  
ドライアイ 等

エピナスチン塩酸塩 (眼瞼クリーム)  
P3開始  
STN1011402, China

オロダテロール塩酸塩  
P2b開始  
STN1014100, Japan

オロダテロール塩酸塩  
P1/2a開始  
STN1014101, Japan

ネタルスジルメシル酸塩  
STN1013900, Japan

PRESERFLO MicroShunt XI<sup>4</sup>  
STN2000110, Europe

セタネオ  
STN1012600, Japan

タプコム  
STN1011101, China

Verkazia  
STN1007603, China

1 DME: 糖尿病黄斑浮腫 2 FECD: フックス角膜内皮ジストロフィ 3 MGD: マイゴーム腺機能不全  
4 CEマークを取得。市販後臨床フォローアップ (PMCF) を開始

## 2025年度第4四半期 R&Dアップデート

新規市場の創出	オキシメタゾリン塩酸塩 STN1013800/RVL-1201 アップニークミニ	眼瞼下垂	中国でのP3試験で、 <b>LPI<sup>2</sup></b>
	シロリムス（点眼剤） STN1010904 <sup>1</sup>	フックス 角膜内皮 ジストロフィ	米国/フランス/インドでのP2a試験データ解析の結果、 開発中止を決定
	シロリムス（点眼剤） STN1010905	マイボーム腺 機能不全	日本での追加P2a試験データ解析の結果、開発中止を決定
既存市場の拡大	オミデネパグ イソプロピル STN1011702 エイベリスミニ	緑内障	中国でのP3試験で、 <b>LPO<sup>3</sup></b>
	オロダテロール塩酸塩 STN1014100	ドライアイ	日本でのP2b試験で、 <b>LPI</b>
	ニンテダニブ STN1014200	翼状片	日本でのP2b試験で、 <b>LPI</b>
	オロダテロール塩酸塩 STN1014101	アレルギー性 結膜炎	日本でのP1/2a試験で、 <b>FPI<sup>4</sup></b>

31 1本プロジェクトコードは、第II相臨床試験終了時にSantenが独占の実施権を獲得した後に附番を予定していたコードです。

2 LPI: Last Patient In. 3 LPO: Last Patient Out. 4 FPI: First Patient In.

## グローバル開発の状況①

### 緑内障・高眼圧症領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況 <sup>1</sup>	
緑内障	タフルプロスト・チモロールマレイン酸塩 (配合剤) タプコム、タプティコム	STN1011101 DE-111A	中国	現状：上市
	オミデネパグ イソプロピル エイベリスミニ	STN1011702	中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
	セペタプロスト セタネオ	STN1012600 DE-126	米国	現状：P2（主要評価項目達成）
			日本	現状：上市
			欧州	現状：P2（探索的試験）終了
	ラタノプロスト Catiolanze	STN1013001 DE-130A Catioprost	欧州	現状：上市
			アジア	現状：申請 計画：2026年度 承認

<sup>1</sup> 試験プロトコールが社内承認されたもののみ記載。

## グローバル開発の状況②

### 緑内障・高眼圧症領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
緑内障	ネタルスジル メシル酸塩 Rhopressa®/Rhokiinsa®	STN1013900 AR-13324	日本	現状：申請 計画：2026年度 承認
			欧州	現状：上市
			アジア	現状：上市
	ネタルスジル メシル酸塩・ ラタノプロスト (配合剤) Rocklatan®/Roclanda®	STN1014003	日本	現状：P3 計画：2027年度 P3終了
			欧州	現状：上市
		STN1014000 PG-324	アジア	現状：上市

## グローバル開発の状況③

### 角結膜疾患（ドライアイを含む）領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
春季カタル	シクロスポリン Verkazia	STN1007603 DE-076C	中国	現状：上市
アレルギー性 結膜炎	エピナスチン塩酸塩 (眼瞼クリーム)	STN1011402	日本	現状：上市
			中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
			アジア	現状：2026年3月韓国での申請を取下げ
	エピナスチン塩酸塩 (1日2回点眼)	STN1011403	中国	現状：申請 計画：2026年度 承認
	オロダテロール 塩酸塩	STN1014101	日本	現状：2026年3月 P1/2a開始 計画：2026年度 P1/2a終了
ドライアイ	オロダテロール 塩酸塩	STN1014100	日本	現状：P2b 計画：2026年度 P2b終了
翼状片	ニンテダニブ	STN1014200 CBT-001	日本	現状：P2b 計画：2026年度 P2b終了

シロリムス (STN1010904) は、フックス角膜内皮ジストロフィを対象としたP2a試験データ解析の結果、開発を中止しました。

シロリムス (STN1010905) は、マイボーム腺機能不全を対象とした追加P2a試験データ解析の結果、開発を中止しました。

## グローバル開発の状況④

### 屈折異常領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
			地域	状況
近視	アトロピン硫酸塩 リジュセアミニ、Ryjunea	STN1012700 DE-127	日本	現状：上市
			中国	現状：P2/3 計画：2026年度P2/3終了
			アジア	現状：申請 計画：2026年度 承認
		STN1012701 SYD-101	欧州	現状：上市

### 網膜疾患領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
			地域	状況
糖尿病黄斑浮腫	Eflimrufusp alfa	STN1014300 RC28-E	中国	現状：申請 計画：2027年度 承認
滲出型 加齢黄斑変性	Eflimrufusp alfa	STN1014301 RC28-E	中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
網膜色素変性症	jCell	STN6000100	—	現状：jCyte社P3試験計画策定中

## グローバル開発の状況⑤

(2026年4月現在)  
青字は更新情報

### その他の領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
眼瞼下垂	オキシメタゾリン 塩酸塩 アップニークミニ	STN1013800 RVL-1201	日本	現状：承認 計画：2026年度 上市
			欧州	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
			中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
			アジア	計画：2026年度 申請

# 上市を目指した重要パイプライン<sup>1</sup>

■ 未参入市場への参入
 ■ 新規市場の創出
 ■ 既存市場の拡大

	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
日本	アップニーク 眼瞼下垂  Rhopressa 緑内障		Rocklatan 緑内障	
EMEA		Catiolanze, PFMD <sup>2</sup> 緑内障  PRESERFLO MicroShunt XI 緑内障	アップニーク 眼瞼下垂	Roclanda, PFMD 緑内障
アジア		リジュセア 近視  アップニーク 眼瞼下垂  Catiolanze 緑内障		アレジオンクリーム アレルギー
中国		ARVN001 ぶどう膜炎  STN1014300 DME  アレジオン LX アレルギー	STN1014301 wAMD  リジュセア 近視  エイベリス, UD <sup>3</sup> 緑内障	アップニーク 眼瞼下垂  アレジオンクリーム アレルギー

37 1. ここに明記してあるパイプラインは各パートナー企業と開示が合意されたもののみであり、予定されているすべてのパイプライン、開発地域が明示されているわけではない。スケジュールは2026年3月末時点で想定しているベストケースであり、上市を確約するものではない 2. Preservative Free Multi-Dose 3. Unit-Dose

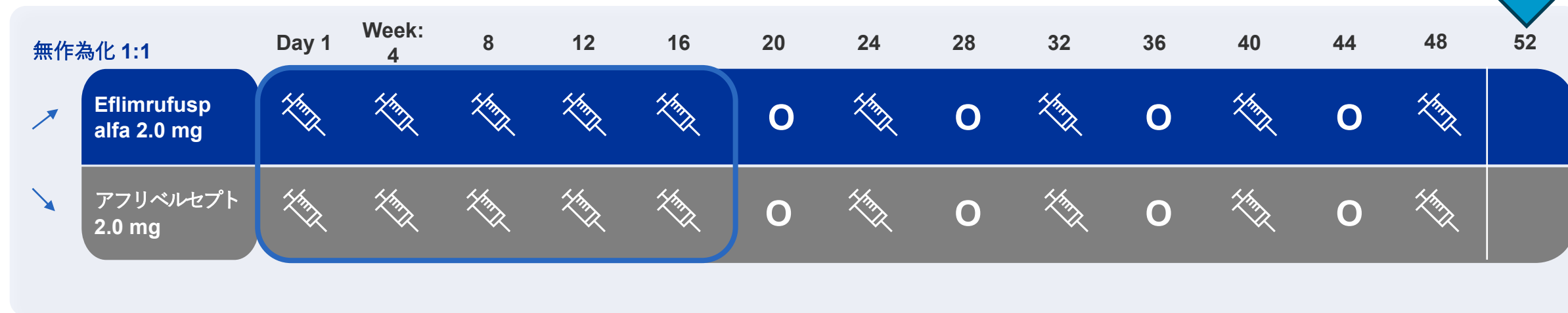
# STN1014300: 糖尿病黄斑浮腫を対象とした中国P3試験プロトコール



- 糖尿病黄斑浮腫に対する効果及び安全性についてeflimrufusp alfaとアフリベルセプトを比較した第III相多施設共同無作為化二重盲検臨床試験 ([NCT05885503](#))
- 組み入れた316名の糖尿病黄斑浮腫患者（未治療及び治療経験有りを含む）を、eflimrufusp alfaとアフリベルセプトに1:1で割りつけ

## 主要評価項目

- 52週における被験眼の最高矯正視力のベースラインからの平均変化量



## 重要な注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいています。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。また、当社は本資料の内容を随時更新する義務を負うものではありません。
- リスク要因としては、以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。医薬品行政の動向、社会・経済情勢ならびに法規制の変更、為替などの外部要因。後発品の影響などの競争環境の変化。主力製品への依存、ライセンス製品への依存、原薬供給等の特定の取引先への依存などの特定の製品・取引先等への依存。新薬開発の不確実性、研究開発投資が十分な成果を生まない可能性、他社との提携の成否などの研究開発活動に起因するもの。その他知的財産権、自然災害などに伴う生産の停滞・遅延、販売中止・製品回収等の製品供給に起因するもの、訴訟およびグローバルな事業展開に関わるリスクなど。
- 本資料には、医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は投資家の参考になる情報の開示を目的としており、投資の投資勧誘や推奨を行うものではありません。投資に関するご決定は皆さま自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に記載された情報は今後予告なく変更されることがあります。本資料の利用にあたっては利用者の責任であり、記載された情報の誤り等を含み本資料の利用によって生じた損害について、当社は一切責任を負うものではありません。

